▲しめ縄名人の手ほどきでワラを束ね、形を作る親子

手作りの“しめ縄”で気持ちのいい新年

南部小の５・６年生が地域の名人に習う

南部小で恒例となった『南部っ子まつり』が12月７日、校内で行われました。

１・２年生は『老人会のみなさんと昔遊び・お店屋さん』、３・４年生は『お家のみなさんと餅つき体験』、５・６年生は『老人会のみなさんの指導でしめ縄作り体験』の楽しい催しで、地域や家庭の人とのふれあいで、守られて生活していることの実感や、温かな人々とともにある南多久を愛する心を育てることが目的です。

しめ縄作りに参加した父親は、「子供がゲームする顔とは違ういい顔をしていた。おじいちゃん、おばあちゃんの話も真剣に聞き、昔の文化や知恵に触れていた。南部小ならではの交流を今後も続けてほしい」と。子供たちは「気持ちのいい新年を迎えられそう。楽しかった」と話し、しめ縄名人の老人会のみなさんに感謝していました。

年末・年始も気を引き締めて“火の用心”

多久ロータリークラブが防火チラシを寄贈

12月３日、多久ロータリークラブの金ヶ江亮子会長ら３人が市役所を訪れ、火災予防を呼び掛けるチラシ8,000枚を横尾市長と佐賀広域消防局多久消防署の池田善孝署長に手渡しました。

『火の用心』と大きく書かれたチラシは、「年末年始で気忙しくなり油断大敵」と、毎年この時期に寄贈。約20年も続く活動です。金ヶ江会長は「標語のように“火の始末、君がしなくて誰がする”です。このチラシを目立つ所に掲示して、防火に役立ててほしい」と言葉を添え、みなさんの安全を願いました。

チラシは、年内に消防団を通じて、市内全世帯に配布されます。

▲市長らに防火チラシを手渡した多久ロータリークラブのみなさん（右側の３人）

▲作業の後に駅前で参加者全員で記念撮影

まちの駅は私たちできれいに

小学生らが東多久駅周辺でチューリップを植栽

11月28日に、東部小学校５年生の児童と、鉄道ＯＢ会のみなさんが、ＪＲ東多久駅の構内やホームなどの花壇に、チューリップの球根約1000個を植え付けました。

鉄道ＯＢ会では、駅とその周辺美化のために毎年小学生と「ふれあい花壇」の植栽を行っており、春には色とりどりのチューリップ、夏には大輪のひまわりが駅利用客や、地域のみなさんの目を楽しませています。

この球根は何色の花が咲くのかな？▶